

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

東京医科大学消化器外科・小児外科学分野での研修を終えて

名古屋市立東部医療センター外科

今神 透

この度、日本臨床外科学会の国内外科研修制度にて、東京医科大学消化器外科・小児外科学分野の肝胆膵外科で、2019年8月5日から8月16日までの2週間、研修をさせていただきました。このような非常に貴重な機会をいただきましたことを、日本臨床外科学会会長の跡見裕先生、国内外科研修委員会委員長の高山忠利先生をはじめとしました委員の先生方皆様に、心より御礼申し上げます。

2019年6月に開催された日本肝胆膵外科学会・学術集会にて永川先生の手術を拝見し、この手術をもっと学ぶ機会が欲しいと感じていた最中に、日本臨床外科学会から本研修が実現することとなった旨のご連絡をいただきました。それ以降、本研修の日を待ち遠しく過ごしておりました。

本研修では2週間という限られた期間ではありましたが、その間に膵頭十二指腸切除術5例と膵体尾部切除術2例の他、肝外胆管切除や肝切除など多くの手術を経験させていただきました。中でも膵頭十二指腸切除術では腹腔鏡手術例や門脈合併切除例など多岐に渡る症例があり、様々な手術手技を学ぶことができました。手術はスピーディーであり、かつ術野が美しいものであり、非常に感銘を受けました。さらに、1日で2例の膵頭十二指腸切除術を施行するような忙しい業務の間にも関わらず、永川先生から直接レクチャーをいただけたことで、手術の知識を深めることができました。ご教授いただいた中で、特に印象に残った知見として、永川先生が手術中に神経線維の存在とその走行に注目されていたことでした。これがスピーディーな迷わない手術を可能にしているとのことで、自分がみている術野とエキスパートの先生がみている術野の違いを痛感しました。また、術野の展開方法も今まで自身で悩んでいた点を解決し得るものでした。ご教授いただいた技術一つ一つを習得すべく、精進したいと考えています。

また自分と比較的年代に近い先生方で構成されている肝胆膵外科チームのスタッフの皆様が親切に迎えて下さり、アットホームな雰囲気でも過ごさせていただきました。そのため、手術のことを中心に術前術後管理など気になった点、以前から疑問に思っていたこと、など様々なことをその都度その都度教えていただくことができました。カンファレンスでは、スタッフの皆様の手術に臨む準備と術後の振り返りを聞くことができ、どのように手術経験を積み重ねておられるのか学ばせていただきました。同世代の、修練中の先生方のそれらの姿勢を自分に取り入れたいと考えています。

本研修期間に、私と同様に日本臨床外科学会の国内研修制度にて東京医科大学消化器外科・小児外科に研修に来院していた、他県で研鑽を積んでいる同世代の2人の先生方とも知り会うことができました。このような交流も、日常業務を送ってはいは決して経験できないものであり、本研修によって非常に有意義な経験をさせていただけたと考えています。この研修で得た経験を自分自身の手術・外科診療に活かし、さらに勤めている名古屋市立東部医療センターの外科全体のスキルアップにつながるよう、努めたいと考えています。

最後になりましたが、私を迎えてくださりました土田教授、手術指導をいただきました永川先生、研修にご協力をいただきました医局員の皆様にあつのご御礼を申し上げまして、研修報告とさせていただきます。

